

研修会報告

第63回全日本教職員バドミントン選手権大会 研修会

講師：再春館製薬所 バドミントン部部长

吉住 克浩



実行委員長：皆さん、こんにちは。この大会の実行委員長をしています三次圭介と申します。どうぞよろしくお願いします。本日の研修会は再春館製薬所バドミントン部部长の吉住克浩さんをお願いしております。吉住さんはバドミントン王国復活プロジェクトというNPO法人を立ち上げられて、熊本のバドミントン王国復活に向けて先頭に立ってご尽力されている方でございます。個人的なことになりますが私の地元の高校の一つ先輩になります。オリンピックなどでお忙しい中をお越しいただきました。ぜひ時間の許す限りじかにお聞きいただいて、一つでも持ち帰っていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いします。

————— 拍手 —————

吉住：こんにちは。三次さんから数か月前に、教職員大会がこの玉名市で開かれることを聞かされました。今言われたように先輩後輩の関係でもありますし、熊本県バドミントン協会でも度々会ったり話したりしております関係でお引き受けしました。下手くそでありまして、ためになる話はあまりできないと思いますけども、何か面白い話をできたらというふうに思っておりますのでお付き合いください。よろしくお願いします。

題名が「熊本バドミントン王国復活プロジェクト」ということになっていきますけども、この時間で会社のことと、バドミントン部の話とNPO法人の話と、最後の方には2015年に再春館バドミントン部を創部いたしまして、熊本県熊本市と連携しながらさまざまな活動しておりますので、その辺のご紹介も含めて話せたらというふうに思っています。

自己紹介ですけども、私、再春館製薬所の社員であります。勤続34年目になっており30歳で2社目の会社がこの会社だったということなんです。その間に企画社員として入社しまして企画、特に広告宣伝部門に長く携わりました。あと女子ゴルフの再春館レディースとかイベントごととかを立ち上げたりしました。ものづくりの薬彩工園ってあるんですけども工場長とか、経理財務や人事も、まあほとんどの社内の部署は経験を積ませていただきました。2014年にルネサスから再春館にチームごと移籍の話が県知事からあり弊社社長が即断し移籍が決まりました。そのときから移籍交渉をはじめとしまして私が担当しました。そこから2015年の4月に創部し、現在に至るまでバドミントン部の部長をやっているという状況です。

NPO法人の方は約3年前に何かもっとバドミントンで貢献できないかということで立ち上げました。その前までは再春館の方でバドミントン教室とか時々やっていたんですけども、もっと組織化したりお金をきちんと集めたりしながら、大々的にしっかりした軸を持ってできないかというふうに立ち上げたのがNPO法人でございます。昨年からBWFのスーパー500熊本マス

ターズジャパンがスタートしましたが、その招致にも関わってきておりまして、大会の実行委員も仰せつかっているようなところでございます。

出身は熊本県で、玉名市の隣町に玉東町というのがありまして、高校は玉名市に通っていました。実家から7キロぐらいなんですけど、実家に帰ればランニングでこの付近までは来たりしています。趣味にランニングを毎朝10キロ、休みの日は20キロぐらい、健康第一で、今日もこの講演があるせいか早く目が覚めまして4時半から2時間運動してきました。

それと木葉猿（このはざる）という玩具がありまして、昔、全国の玩具番付で西の横綱になったというようなことを聞いています。これが唯一私の地元の玉東町で有名なものです。

オリンピックで「シダマツ」が銅メダルを獲得しましたので、少しお話をします。おかげさまで「シダマツ」が銅メダルを獲得しましたが、山口もオリンピック3大会連続ベストエイトということで、それもすごい成績だというふうに思っています。マスコミが「シダマツ」ばかり取り上げて山口を取り上げないことがわれわれスタッフとしては「こんちくしょう」と思っているようなところがございます。まあメダルを取りまして初めて私たちも実感するんですけども、オリンピックのすさまじさと言いますか、すごい力を感じています。山口が世界選手権を2連覇したときはそこまでなかったんですけど、銅メダルを取った瞬間にメディアからの取材が一斉に入ってきました。この3人は明日、日本に戻って来まして熊本には明後日夕方帰ってくるようになってるんですけども、東京のすべてのキー局から全国放送のオリンピック特番の出演依頼が「シダマツ」にきています。8月の17、18日あたりにジャパンオープンで東京に移動することになっているんですけども、その前の16日までいろんなスケジュールが入ってまして休む間もなくかわいそうなぐらいです。

一方で今、志田のインスタのフォロワー数がめちゃくちゃ上がってるんです。オリンピック前は45万人ぐらいフォロワーがいたんですけど、それでも多いと思いますが、この数日で75万人を超えています。おそらく年内に100万人に行くんじゃないかと思っています。あとYouTubeをうちは積極的にやってるんですけども、大体月に10万回再生するというのが平均なんです。けども、今は1日で10万回を超えようという状況です。そういう意味でもすごい宣伝になっています。「シダマツ」「肌がきれい」「再春館」というワードで。実際にはドモホルンリンクルの売上までには、もう少し時間がかかるんですけど。うちはビジネスモデルでいきますとまずお試しセットを請求していただくというようになりますが、それが一日の予測数の2割増し3割増しぐらいで請求数が上がっています。私、今日着てきましたTシャツですが、これ熊本マスタースを記念してオリジナルで製作し販売してるんですけども、このTシャツ関係も3割増しぐらいになっています。日本だけに止まらず越境ECで海外からの発注、購入が3割4割増しぐらいで増えています。オリンピックがビジネスにもろ直結しているというのを初めて実感し、オリンピック恐るべしみたいなことを感じているような状況でございます。

少し変わったことを話させていただきますけど、再春館製薬所といいますのは熊本の西川グ

グループの一員です。九州警備保障、キューネット、再春館製薬所、桜十字という大きく四つのグループがあります。この元にその子会社とかグループ会社全部足し合わせますと200社ぐらいあります。グループで年商が、昨年度1,200億円を超えていて、グループ社員数が1万2千人を超えてるという西川グループでございます。で、熊本空港の1階到着ロビー付近に横が9.3メートル、縦2メートルの看板を掲げてまして、「私たちは熊本に真剣です」というキャッチフレーズで展開しているというようなことでございます。

再春館製薬所のことを少し話させていただきます。再春館製薬所というのは、熊本県益城町という空港まで10分位で行けるようなところがございます。2016年の熊本地震の震源地にも車で4、5分で行けるところにありまして、自然多い環境で総称して再春館ヒルトップって呼んでいます。イギリスの湖水地方のヒル・トップ、そこをモデルにしまして2000年にそこを開発したんです。開発をした時の責任者が私で、土地の売買や銀行からの借入れから全部した思い入れの深い場所になっています。商品の製造・発送をしている部門を「薬彩工園」といいます。本社機能は「つむぎ商館」というところがございます。それと販売のコールセンター、すべて通信販売でやっています。それと歓迎館という受付と資料館があります。

再春館製薬所の商品ってどういうものなんだということですが、基礎化粧品の「ドモホルンリンクル」、その他には漢方薬の「養生薬湯」、そして「痛散湯」。これは五十肩とか膝に効果があるというものです。食品では「歩みのゼリー」とか「飲むドモホルンリンクル」「めぐりの結晶」とかいう年齢を重ねて必要になるということにこだわった商品を出しています。

2000年から太陽光パネル発電にこだわまして、自然のめぐみとかそういったものにこだわった商品開発をしています。できる限り自然に、ということで太陽光パネルの電気で再春館ヒルトップの使う電気100%を賄うという考えをしています。

体育館は「再春館製薬所サクラリーナ」と名付けています。計画したのは熊本地震の前でした。熊本地震後に人件費とか資材関係がむちゃ値上がりしまして造るのどうしようかって悩んだんですけど、造らんことにはダメだろうということで出来上がったのがこの体育館。コートは8面ございまして、東京オリンピックのときはインドネシアのナショナルチームが直前合宿をしました。

再春館製薬所は、熊本県益城町なんですけど東京オフィスとか台湾にもオフィスがございまして。商品は店舗では直接販売しないんですけど、例えば東京ですと松屋とか新宿の京王百貨店とか、あと名古屋・大阪・福岡辺りの百貨店にもお店を構えていまして、お試しセットとか肌の相談、そういった意味合いのお店を百貨店に構えているような形をとっています。

再春館製薬所はスポーツイベントに結構深く関わってやってきております。再春館レディースという女子プロゴルフトーナメントを1992年から2004年まで開催してまして、他社のトーナメントとは一味違うものをつくろうとしました。水曜日に前夜祭があり、木曜日にプロアマトーナメントがあるという形が多いのですが、せっかくやるんだったら試合前に何かやろうと。で、熊本に桜の苗木を植えていこうという企画をしました。13回の間にプロアマや前夜祭の参

加者が熊本県内に桜を5,000本ぐらい植えまして、今では花見ができて、人がたくさん集うような場所になりました。

グループ会社のキューネットでは「笑顔で歩こう走ろう」というイベントを行いました。高橋尚子さんも企画に賛同してくれて、2001年から毎年来ていただきました。1日の大会に1万人以上の人が集まって道路が大渋滞、熊本県警のパトカーが出動してえらく怒られた、なんて経験もございます。

再春館とスポーツの関わりとしては、「Saishunkan Sol 熊本」というチームで日本最高峰のプロのeスポーツのストリートファイターリーグに参戦しています。

それから「熊本ヴォルターズ」というバスケットボールのBリーグ2部にいるチームを支援しています。

さてバドミントン部につきまして、現在10年目になっています。2014年にルネサスさんが廃部するという話があったときに、当時の蒲島熊本県知事からうちの西川会長に相談がありました。西川会長の自宅と県知事の公舎が隣同士なもので、ある土曜日に「ちょっと西川さん知事公舎に来なっせ」みたいな感じで、行ってみたら「バドミントン部を引き受けてくれんね。再春館が引き受けなかったら、もうチームはバラバラになるし県外に選手も出て行ってしまう」。ちょうどロンドンオリンピックで藤井・垣岩選手が銀メダルを取った後で、二つ返事で「分かりました。やりますよ」となりました。われわれ役員が月曜日に出て行くと緊急招集ということで拒否権はなし。取りあえず2億ぐらいかかるわけです。どうすればうまくチームを移籍できるのか、それだけ考えて行動しなさいということです。「吉住、お前担当」ということでバドミントン部との関わりがスタートしたということでございます。

どこの会社もそうだと思いますが、何をやるにしても理念が大事です。再春館製薬所も理念を大事にしています。バドミントン部の創部にあたって大事にしている理念は、一つ目は強いチーム、二つ目は愛されるチーム、三つ目にはバドミントン部の価値を上げることを目指しました。ちょっと大きな話をするようですみませんけども、こうやって引き受けたからにはバドミントンを人気スポーツに、メジャーにしてもっと注目を浴びる競技に引き上げたい。それがブーメランになって再春館にも返ってくるというわけです。そういう考え方を経営陣だけでなく、選手ひとりひとりに腹に落ちるまで話をしました。色々な活動はそういう意味があるんだと。うちに来たら理念をトータルで達成していく、ということからバドミントン部のチーム作りはスタートしたというふうに思っております。

今10人選手がおります。シングルス4人、ダブルス6人3ペアですね、世代交代の時は多少変わりますけど基本的には10名。チームとして目指しているのは全日本実業団とS/Jリーグで、コロナ明けから最近準優勝がとて多くなっていて、悔しい思いをしているところです。11月からS/Jが始まりますが、ここでは優勝していきたいというふうに頑張っているところでございます。（※その後行われた「S/Jリーグ2024」は2年ぶりに優勝することが出来ました。）戦績ですけど2022年は優勝がとて多くて、団体、個人と年間で16回優勝しています。個人の

会はグレードがいろいろありますけど、おかげさまで16回優勝しまして、全英オープンでは同じタイミングでシングルス、ダブルスと優勝してくれました。

愛されるチームということでは、SNSのフォロー数をとてきながらやってきております。特にInstagram、X(旧ツイッター)、それとYouTube。これはどんどん展開していこうという考え方でやっております。山口はインスタ22万6,000人、Xが8万人なんです。松山も11万人と決して少ない数字ではないんですが、志田の方が多くて目立たない。志田は74万人。これはオリンピックで30万人ぐらい増えまして、おそらく年内に100万超えるんじゃないかなというような勢いです。

それとYouTubeのフォロワー数が今2万3,000人で8月6日、昨日の12時で366万回再生だったんですけど先ほど見ましたら374万回再生なので、この1日で8万回ぐらい再生されているというようなことでございます。YouTubeのお金をもらえる仕組みってご存じですか。まずフォロワー数が1000人以上にならないとお金はもらえない。で、再生回数1回あたり大体の平均が0.3円です。だから366万回再生されているということは、うちのチームに100万円以上が入ってくるという計算になります。

それではNPOに関して話をします。なぜNPO法人なのか。もっとバドミントンで熊本を元気にとか、明るくしたいという考え方で以前からバドミントン教室とか熊本県バドミントン協会と連携しながら、何かイベントがあるときは再春館製菓所の選手を出したりしておりました。しかし、再春館製菓所の持ち出しだけではしっかりした長続きしないだろうと。しっかりした組織でやっていかないと長い継続的な活動もしにくいですし、お金はどうするんだということがあってNPOを立ち上げることにしました。『熊本県バドミントン王国復活プロジェクト』というのはどういう意味かといいますと、1970年代、工藤先生が現役の頃とかは社会人、高校・中学・小学、熊本県大会の決勝が全国の決勝みたいな感じの時代があったそうです。バドミントンが強かったそういう時代に戻したいというような思いでNPO法人の名前にしました。こういったことに賛同していただけると、寄付金だったり補助金とかももらいやすくなるのかな、と思ひまして立ち上げに動くようになったというようなことです。

立ち上げまでのスケジュールですが、構想を練ってスタートまでに約1年ですね。その前からややもやしていた時代まで入れますともう2年ぐらいになるんですけども、実際に構想を練り出して1年かかりました。

私はどちらかというとその関係者と連携して、さらに発展させていくという考え方があります。実際、熊本県バドミントン協会の水野理事長や日本バドミントン協会の銭谷専務理事、丹藤事務局長の2人と会って話してみるとバドミントンに対する熱はすごいものがあり、刺激を受けてこのNPOを立ち上げなければと強く思いました。水野理事長をはじめとしましていろいろ相談したりしますと、初めてのことは誰もが抵抗があると思いますが、特に水野理事長はいいと思ったら、よしやれって、吉住さんこれやろうっていう話になるんです。そういう方がいてこのNPO法人の立ち上げ1年間というスピードで立ち上げられたという部分は間違いな

くあると思います。それとポイントは、熊本県の要職にある方にもこのNPO法人の理事に入っているということ。いろいろな面から行政として支援していただける、そういうことも考えて組閣をしています。

それからNPO法人としまして何をを目指していくか。目指すものはちゃんとしっかり持ってやっていこうということで3つの柱を立てました。1つは真ん中にNPO法人の会員様です。左に協力の形で熊本県、熊本県バドミントン協会、再春館製薬所。右に活動にご賛同していただける企業、個人の皆様にパートナーとして支えていただきたいというようなことです。

プロジェクトとしましては目標を大きく3つです。バドミントン競技人口、熊本県の登録率日本一にする。小学・中学のジュニアの県内トップ選手の強化育成をやっていましょう。それと身障者バドミントンの普及発展にも力を入れられたらいいねというようなことで大きく3つを目指す目標に掲げました。その実現のためのアクションは7つ。『県下バドミントン教室』『トップジュニア育成アカデミー』『ジュニア国際交流事業』『障がい者バドミントン支援』『国際大会などの観戦招待』『ジュニア選手の遠征費補助』『トップジュニア大会』、こういったことを取り組みとして掲げて今日に至っています。

詳しくは復活プロジェクトのホームページを見ていただければ出ております。そこにNPO法人の活動の実績という項目があります。再春館の選手は世界ランキングを押し上げるために、オリンピックに出た3人だけじゃなくてほかの選手もしょっちゅう海外の試合に出て行きます。選手たちはなかなか熊本にいないんです。で、いない中でも年間で10回ぐらひはバドミントン教室を開催しています。熊本県バドミントン協会は支部が22カ所ありまして、そこと連携しながらできる限り22支部全部を回れるようなことで3年近く活動をしております。次にトップジュニア育成アカデミーということで、これは小学・中学男女のトップ選手を小学4年から中3まで各学年で代表を決めまして、それで月に1回の指導を選手たちがやっています。ジュニア国際交流というのも年に1回海外に行ったりして交流を深めるという活動もやっています。

直近5年の目標ということでいくつか掲げているんですけど、『小中高生日本一』というのがあります。アカデミー生の高野君が埼玉栄高校でインターハイ優勝しました。『ナショナルジュニア代表』にもこれまで入っていますので、2つは5年以内目標をクリアしているというようなことになっています。

バドミントン教室って年10回近くやっているのですが、熊本県益城町でやったときには山口、シダマツが参加しました。この三人が熊本にいるのがもう本当に珍しいのですが、参加者も喜んで大変盛り上がりしました。

トップジュニア育成アカデミーは毎年4月から3月で1年間、日本一とか世界一を目指すような子を集めています。素質があれば2年目3年目と繰り上がってもいくんですけど、一応1年間。で、そういう選考の規約も作りまして、それに沿って選考して小学3年から中学3年までの男女2名ずつ、合計24名を月に1回私どものサクラリーナ体育館で指導をやっていきます。

ジュニア国際交流は、昨年台湾に3泊4日です子供たち12名大人7名を連れて行きまして、八

代市と共同企画でやりました。なんせいろいろお金がかかるものですから。トータルで300万円ほどかかり、その半分をNPOが出しているというような事業です。で、台湾に行った先では子供たちとの交流はもちろんなんですけど、台湾バドミントン協会との交流も実施され、台湾は東京オリンピック前に八代市で合宿を行いました。

NPO法人を立ち上げてましてこれは1年目の話なんですけども、86の企業法人から1,328万円お金が集まりました。特にNPO法人の木村洋一郎代表理事は、熊本県バドミントン協会の会長であり会社の社長もされておりまして、その協力会社からすごく大きなご支援をいただきました。私は昔から地元メディアとの関係がありますからメディアに話をしてお金を出していただいたり、できるだけテレビや新聞で取り上げてもらったりしてNPO法人への認知や理解も進み、これだけのお金が集まったと思います。現在行ってる活動では大体800万ぐらい年間でかかるんで少し繰越金が出て2年目3年目に至っているんですけども、くまもとでは、Super500の国際大会である熊本マスタースが2023年から新たに始まりました。この大会でも協賛金を集めないといかんですが、そうしましたら企業さんが大体かぶるんです。熊本マスタースは3億近くかかります。だからそっちの方に基本にお金を回しながらNPOの方は地元で集める形をとっています。

熊本県におけるバドミントン体制ですけれども、何をやるにしても熊本県バドミントン協会と再春館製薬所で連携して、そこから日本バドミントン協会、ヨネックスの方々に話をして協力をお願いしているというようなことです。これまでの成果としまして一つはS/Jリーグ熊本大会をほとんど毎回毎年開催しております。S/Jリーグは全国で大会やっていますけども、日本一の観客数です。東京よりも入ります。S/Jリーグ改革ということで、特に今度の11月から大会のモデルを作り変えていこうという話がございます。そのモデルに熊本大会も含まれております。2017年に熊本で開幕試合を土日で行ったんです。全チームが来まして、2日間で1万人動員しました。スポットライトでコートだけに照明が当たる。観客席は薄暗い。今でこそいろんな大会で国内もやるようになりましたが、当時特別に照明を何百個もつけました。開始式では選手紹介を画面でバーンと出して印象深く、セレモニー感が出るように盛り上がるようにしました。入場でも横にくまモンと一緒にいたりして、子供と手をつないで暗い中ここだけがスポットライトを当てました。このような企画をして1万人動員に結びつけたというのがございます。

熊本マスタースジャパン、言うまでもないことかもしれませんがBWFのワールドツアーのグレードが一番上にSuper1000があります。続いて750、500、300、100と下がっていきます。ジャパンオープンが750、数年前までは500だったので熊本はいきなり500を狙う。500、300両方を上げたかどうかという意見もありましたが、水野理事長や県協会の皆さんとも協議をして500一本で行きました。300だったら熊本でやる価値は無い、500で落ちたら本望だという気持ちで500に懸けました。実際決まりましたのが2022年の6月18日にBWFの理事会で、4年間の開催が決定しました。ちょうどこの決まる前日にある海外のBWFの理事から連絡があって、

300に手を挙げなくていいからという話がありました。このときに世界の都市で手を挙げたのが12都市でした。今スーパー500は9都市で行われてます。12分の9だった。で、話を聞くと熊本は6番目だったということでした。なぜ6番目だったかというと、熊本は交通アクセスが悪い。羽田とか成田に入って熊本に入らなければならない。あの頃はまだコロナがあって福岡からは入れない。で、その点数がむちゃ低かった。それがなかったら4番ぐらいにはなってたんじゃないかと聞きました。

熊本マスターズ招致に当たってわれわれが考えたことというのは、やっぱりどういうことをしていけば問題がクリアになるか。一つはお金の問題と、もう一つは大会運営の問題。BWF理事会が大会招致の決定権を持っていますので、それを決めていただくには何が必要かを関係者で考え行動しました。大会申請の窓口は大会主催者である日本バドミントン協会、熊本県は一番下ですから、申請書類なんかは熊本県が中心になり作らねばなりませんでした。

熊本県は数年前にラグビーワールドカップとか女子ハンドボール世界選手権を招致して成功しているという実績がありまして、こういった経験豊富なところから熊本にもスーパー500は必ずできると確信して準備に入りました。

ちょうど6月18日は全日本実業団選手権大会を大阪でやっていまして準決勝に勝って明日は決勝、これが夜10時ぐらいに招致決定の情報が飛び込んできたので、これはいいな明日優勝だなと思ったらころっと負けたという、そんなこともありました。

第1回熊本マスターズを去年の11月にやりまして、火曜日から日曜日までで1万8,000人集客しております。開門時間の1時間前に長蛇の列です。何百メートルと並んでいただいて、すごい人気だなと思いました。ところが実は日本人選手が金曜日までに全員いなくなりまして、土日は外国選手だけだったんです。人が入るかなと思いましたが超満員で、大会自体は最後まで大盛り上がりで終了しました。観客のアンケートでも非常に良い大会だったという声が多くて、また2回目につながったというようなことです。

これからもバドミントン発展のために努めてまいりたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。長時間ご清聴ありがとうございました。

————— 拍手 —————

実行委員長：皆さんどうもありがとうございました。本当に忙しい中、暑くてお疲れのところかと思いますが、このように熱い講演を聞かせていただきまして本当にありがとうございました。